

## コンサルテーション事業報告

事業名 重複障害児・者コミュニケーション支援

事業代表者 川住 隆一 (人間発達臨床科学講座)

対 象 重複障害児・者、重複障害児・者の家族、重複障害児・者が在籍する学校の教師、関係機関職員

目 的 重複障害児・者と周囲の者とのコミュニケーションが成立・展開することを目標として、各々の生活の場や活動の場におけるコミュニケーションの機会と方法の開発を行うことを目的とする。また、このための周囲の在り方について、保護者や教員、福祉・療育機関職員とともに探っていく。

主なスタッフ 川住隆一および川住研究室指導学生

東北大学大学院教育学研究科：笹原未来・野崎義和・佐藤真理・成重祐希

東北大学教育学部：武藤千聖・南島 開・下大澤友美

### 実施内容

#### (1) 教育相談として対応している事例 (6 事例)

6 事例は、青年期および児童期にある盲ろう、重度肢体不自由、あるいは重度知的障害を有している。各々月に 1 度位の割合で保護者と共に来談しており、研究室やプレイルーム等で対応している。全員がコミュニケーションの発信・受信手段やコミュニケーション内容の拡がり为目标であるが、その他に、楽器や玩具の操作行動、絵画の表現行動、スイッチの操作行動の広がりも大きな課題である。

本年度は、この内の 2 事例について、語りかけおよび絵本の読み聞かせの効果について検討し、結果を武藤が卒業論文としてまとめた。また、笹原が Rett 症候群事例についてコミュニケーション関係を基盤とした探索行動の促進経過をまとめ、学会発表等を行った (笹原・川住, 2011ab)。

#### (2) 病院・施設に長期入院中の事例 (2 事例)

国立病院重症心身障害児病棟に入院していて、重度肢体不自由のため発信手段に大きな制約はあるものの言葉の理解力が比較的高い成人 1 名について、野崎がパソコン操作による文字でのコミュニケーション支援を実施した。併せて本人の「語り」への傾聴を継続し

てきた。また、保護者と看護スタッフの要望を踏まえ、主に佐藤がウェルドニッヒ・ホフマン病児へのコミュニケーション支援を継続してきた（佐藤・川住,2011；佐藤,2012）。

### (3) 家族会での相談活動

重度の障害がある子どもの家族会（一関市）の月例会に川住と南島が参加し、メンバーの保護者7名やヘルパーらとともに、コミュニケーションという観点から、普段抱える悩みや工夫を出し合い、これからの方向性等について話し合った。

### (4) 学会報告等

佐藤真理・川住隆一（2011）ウェルドニッヒ・ホフマン病児の新たな発信手段を見出すみー。日本特殊教育学会第49回大会発表論文集，489。

佐藤真理（2012）ウェルドニッヒ・ホフマン病児のコミュニケーションの高次化に関する研究。平成23年度（2011年度）東北大学大学院教育学研究科修士論文。

笹原未来・川住隆一（2011a）Rett 症候群者の探索行動の促進に関する実践研究—ミュージックビーズチェーンスイッチでの活動における手の動きに着目して。日本特殊教育学会第49回大会発表論文集，490。

笹原未来・川住隆一（2011b）手の常同運動がみられる Rett 症候群児の探索的操作行動の促進を目指した教育的対応の展開過程。東北大学大学院教育学研究科研究年報，第60集第1号，331-343。

武藤千聖（2012）重度・重複障害児と母親との相互交渉に関する研究—語りかけ・絵本の読み聞かせ場面を踏まえて—。平成23年度（2011年度）東北大学教育学部卒業論文。